



# 安全報告書

## 【2025年度】

本安全報告書は、航空法第111条の6並びに同法施行規則221条の5及び6に基づき作成し、公表しております。



エス・ジー・シー佐賀航空株式会社

## 目次

はじめに	2
1. 運送の安全を確保するための事業の運営の基本的な方針	3
2. 輸送の安全を確保するための事業の実施及びその管理の体制	4
(1) 安全確保に関する組織及び人員に関する情報	
ア 全体及び安全確保に関する組織	
イ 経営の責任者による輸送の安全確保に係る責務	5
ウ 安全統括管理者の権限及び責務	
エ 安全統括管理者の選任の方法	
オ 各組織の機能及び役割	
カ 各組織における人員数	6
キ 航空機搭乗員、運航管理担当者及び整備従事者の数	
(2) 日常運航の支援体制	7
ア 定期訓練及び審査の内容	
イ 日常運航における問題点の把握と共有及びフィードバック体制	
ウ 安全に関する社内啓発活動等の取り組み	8
(3) 使用している航空機に関する情報	
ア 使用している航空機の情報	
イ 救急用具の装備状況	9
3. 法第111条の4の規定に基づく報告に関する事項	
4. 輸送の安全を確保するために講じた措置及び講じようとする措置	
(1) 上記3.の再発防止のために講じた措置又は講じようとする措置	
(2) 国から受けた事業改善命令、嚴重注意その他行政指導等の有無	
(3) 情報の伝達及び共有	
(4) 事故等の防止対策、発生時の対応及び災害への備え	
(5) 内部監査の実施及びその管理状況	
(6) 輸送の安全に係る文書の整理及び管理	10
(7) 事業の実施及びその管理の改善	
(8) 安全に関する目標の達成度及び取り組みの実施状況	
(9) 次年度における安全目標及び各部門における具体的な取り組み目標等	

## はじめに

平素より弊社をご利用いただき、誠にありがとうございます。

航空事業において、安全の確保は何よりも優先されるべき使命であり、すべての事業活動の根幹を成すものです。当社は、いかなる状況においても安全を最優先とするという基本姿勢のもと、日々の運航業務に取り組んでおります。

しかしながら、当社は2024年度および2025年度に航空事故を発生させるという重大な事態を招きました。これにより、お客様ならびにご家族の皆様、関係機関、地域社会、そして日頃より当社をご支援いただいている多くの皆様に、多大なるご心配とご迷惑をおかけしましたことを、改めて深くお詫び申し上げます。

当社は、これら一連の事故を極めて重く受け止めております。事故発生後、速やかに原因究明を進めるとともに、外部有識者の知見も取り入れながら、安全管理体制全般に対する総点検を実施してまいりました。その結果を踏まえ、運航・整備・教育訓練・リスク管理の各分野において再発防止策を策定し、着実に実行しております。

特に、安全に対する意識と行動を組織全体に深く浸透させるため、「安全文化」の再構築を最重要課題として位置づけ、経営層から現場社員に至るまで、安全に関する対話を継続的に行い、現場の声を真摯に受け止める風土づくりに取り組んでおります。また、ヒューマンエラーの未然防止やリスク感度の向上を目的とした教育・訓練の充実を図るとともに、情報共有体制の強化にも努めております。

本報告書では、これらの安全に関する取り組み内容、進捗状況、および今後の課題について、透明性をもってご報告いたします。当社は、事故の教訓を決して風化させることなく、一つひとつの取り組みを着実に積み重ねることで、信頼回復に努めてまいります。

安全に終わりはありません。当社は今後も不断の改善を続け、より高い安全水準を追求するとともに、お客様に安心してご利用いただける航空会社であり続けるため、社員一丸となって安全確保に取り組んでまいります。

引き続き、皆様のご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

2026年 5月  
エス・ジー・シー佐賀航空株式会社  
代表取締役 中山博樹

## 1. 輸送の安全を確保するための事業運営の基本的な方針

### 安全運航宣言

安全運航は、企業の社会的責務であると同時に会社経営の最も根幹となる基盤であり、この基盤があってこそ良質の業務やサービスが提供でき、社会に貢献できるものであるという強い認識と信念を持っている。

経営陣から社員一人ひとりに至る全ての者が「安全運航」達成のために安全方針の認識と実行を徹底し、意思疎通を図り、情報を共有し、会社の方向性を的確に捉え、社員一丸となって日々努力し継続していくことが日常業務において重要であり最優先される。

安全運航に係る不安全要素をいち早く察知し、それらの情報を速やかにかつ円滑に社内に周知し対策を講じることができる安全風土を定着させ、更なる安全活動と教育を維持し継続していくことで『事故・不安全の絶無』に向け努力することを誓いここに宣言する。

弊社は、安全に関する事項を最優先事項と認識し、安全管理規程に以下の安全方針を定め、事業運営方針としております。各部署に下記の内容を掲示し、毎週月曜日の朝礼時に社員全員で安全方針を唱和し安全意識の高揚に努めています。

- 一、安全は全てに優先するものである。
- 一、安全は全員の責務であり、関係法令・規則等を遵守する。
- 一、安全は与えられるものではなく日々の努力により獲得するべく追及し続けるものである。

### 安全方針

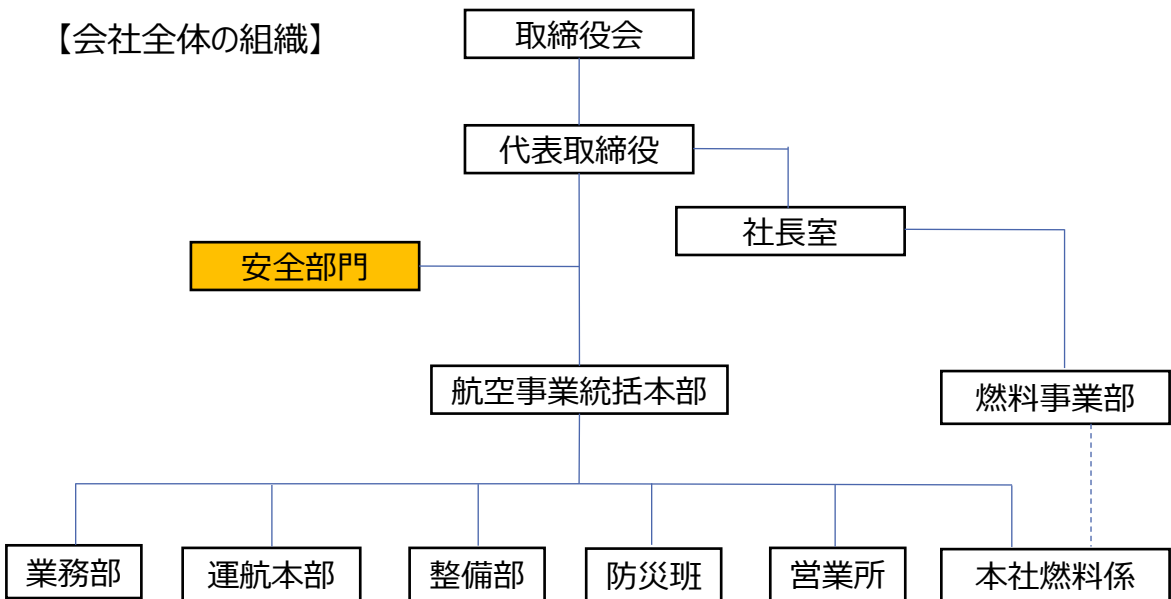
安全は、全てに**優先**する  
安全は、全員の**責務**である  
安全は、日々努力により**獲得**する

## 2. 輸送の安全を確保するための事業の実施及び管理体制

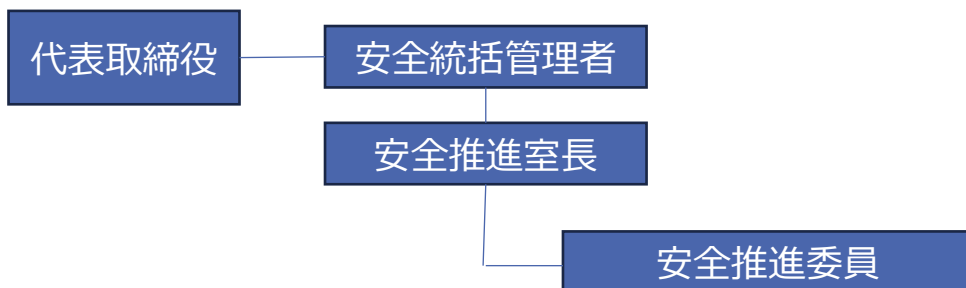
### (1) 安全確保に関する組織及び人員に関する情報

#### ア 全体及び安全確保に関する組織

【会社全体の組織】



【安全管理の組織】



## イ 経営責任者による輸送の安全の確保に係る責務

輸送の安全の確保のため、主体的かつ積極的に関与し、強いリーダーシップを持って組織全体の安全管理体制を構築・改善するとともに、様々な要因から生じる安全上の課題並びに自然災害等への備えと対応を図り、適切に運営する。

## ウ 安全統括管理者の権限及び責務

安全管理体制に必要な手順及び方法を確立し、実施し、維持し、改善する。また、安全管理体制の課題又は問題点を的確に把握する立場として、経営責任者に適時、適切に報告又は意見上申する。

## エ 安全統括管理者の選任の方法

航空法第103条の2第2項第4号に準じ、社内の安全管理の取り組みを統括、管理する責任者として社長が選任する。要件として、次の2件。

- (ア) 事業運営の重要な決定に参画する管理的地位にあること。
- (イ) 航空運送事業の実施又は管理の総括に関する経験が3年以上あること。

## オ 各組織の機能及び役割

### (ア) 代表取締役（経営責任者）

- ① 関係法令等の遵守と安全最優先の原則を徹底させる。
- ② 安全方針を設定し、安全管理体制が適切で有効的に機能するために見直しと改善を行う。
- ③ 安全統括管理者の選任及び解任をする。なお適任者が選任できない場合は代表取締役が兼務する。
- ④ 重大な事故等への対応を実施する。
- ⑤ 安全施策・安全投資に係る安全統括管理者の意見を尊重する。
- ⑥ 安全管理体制に必要な経営資源の確保と配分を行う。

### (イ) 安全統括管理者

- ① 安全管理の取り組みの統括管理者として、社内の安全活動の監視と継続的な安全管理体制の改善を行う。
- ② 安全推進室長の選任及び解任をする。
- ③ 安全に関する重要事項と安全推進室の活動について、社長への報告と提言を行う。
- ④ 安全推進室及び各組織への安全に関する助言、勧告、援助を行う。
- ⑤ 安全風土、安全文化の構築及び定着の実現に努める。

(ウ) 安全推進室長

- ① 会社が定める「安全推進室運営規則」により安全推進室を運営する。
- ② 安全統括管理者が不在時は必要に応じて代行を行う。
- ③ 安全推進委員の選任と解任をする。
- ④ 安全管理体制が職場で有効に機能しているかを監視し、必要な勧告を行うとともに、改善の必要性について安全統括管理者への提言又は報告を行う。
- ⑤ 安全重点施策の進捗状況、是正措置及び要望措置の実施状況を把握する。
- ⑥ 関係法令等の遵守と安全最優先の原則を社員に徹底させる。
- ⑦ 情報伝達及びコミュニケーションの確保を行う。

(エ) 安全推進委員

- ① 関係法令、各規定、各種業務規則の遵守及び安全方針、安全情報の周知徹底と実現の動機付け並びに職場での反映状況を把握し、必要に応じた指導を行う。
- ② 職場での問題及び改善事項を取りまとめ、安全推進室へ提言または報告を行う。
- ③ 安全推進室の運営サポートと運営状況について職員へ伝達する。

(オ) 社員

- ① 関係法令、各規定及び各種業務規則等の遵守
- ② 職場での不安全要素、問題点について改善提案と解決に向けた取り組みを行い、管理職又は安全推進室へ安全提言若しくは報告を行う。

カ 各組織における人員数

令和8年3月31日現在

部門別	安全推進	運航部	整備部/燃料管理	業務部
人員数	4	14	8 / 2	6

※ 防災及び嘱託者を含む

キ 航空機搭乗員、運航管理担当者及び整備従事者の数

令和8年3月31日現在

部門別	航空機搭乗員	運航管理担当者	整備従事者	有資格整備士
人員数	14	6	8	7

※ 防災及び嘱託者を含む

## (2) 日常運航の支援体制

### ア 定期訓練及び審査の内容

国土交通省航空局で定めた「運航規程審査要領」、「整備規程審査要領」及び「航空運送事業及び航空機使用事業の許可及び事業計画変更の許可審査要領」に基づき、社内規定（「運航規程」及び「整備規程」）を設定し、定期訓練及び審査を実施しています。

#### (ア) 航空機乗組員

- ① 定期訓練  
運航に必要な知識及び技量を維持向上させるために、年1回の定期訓練を実施しています。
- ② 定期審査  
上記能力を有していることを確認するため、年1回定期審査を実施しています。

#### (イ) 整備従事者

- ① 技術維持訓練  
年に1回、技術維持訓練として整備作業等に必要な学科教育及び実地訓練を実施しています。

#### (ウ) 運航管理担当者

- ① 定期審査  
運航管理に必要な知識及び能力を有していることを確認するため、年1回定期審査を実施しています。

## イ 日常運航における問題点の把握と共有及び現場へのフィードバック体制

#### (ア) 全体及び各部の朝礼

毎日朝礼を実施し、当日の運航計画に沿った安全確認を実施しています。また各部門の安全に関する調整はその都度実施し、各部員へ周知徹底を図っています。

#### (イ) 運航管理担当者からの報告の活用

全体朝礼終了後、運航管理担当者から最新の航空情報（気象を含む）のブリーフィングを受けています。

#### (ウ) 報告制度の活用

ヒヤリハット報告を提出しやすい環境を作り、何でも報告できる環境作りと社員への情報のフィードバックを心掛けています。

(エ) 全体終礼

毎月、第2及び第4金曜日に全体終礼を実施し、各部等における前後2週間の状況及びスケジュール等の情報を共有するとともに、不安全要素についての意見交換を行っています。

ウ 安全に関する社内啓発活動等の取り組み

(ア) 航空安全の日の設定

毎年12月24日を『航空安全の日』と定め、社長訓示をはじめ安全活動報告及び安全提言について、全社員に対する教育及び会議を行っています。

また7月に発生した事故にともない、2025年度からは7月に「安全教育の日」を定め、さらなる安全意識を高揚させるための教育を実施することにしました。

(イ) 航空機乗組員の安全教育会議

年に4回の全乗組員を対象に安全教育を行っています。

(ウ) 安全掲示板の活用

安全掲示板に、安全に関する様々な情報を掲示し、安全意識の高揚を図っています。

(エ) 各種訓練等への参加

社内訓練だけでなく、社外で行われる各種訓練等に積極的に参加しています。

(オ) 安全方針の唱和

毎週月曜日の朝礼時に、安全方針を全員で唱和し、安全意識の高揚を図っています。

(3) 使用している航空機に関する情報

ア 使用している航空機の情報

令和8年3月31日現在

機種	機数	座席数	平均年間飛行時間	導入時期	平均機齢
セスナ式 172型	4	4	179:32	1998年	32年
セスナ式 206型	1	6	149:13	1999年	46年
エアロスパシアル 式350型	1	6	3:50	2002年	42年
ロビンソン式 R44型	2	4	運休中	2000年	22年

## イ 救急用具の装備状況

航空法施行規則第150条に基づき、旅客の安全を確保するため、以下の救急用具を装備しています。

- (ア) 防水携帯灯
- (イ) 非常信号灯
- (ウ) 救命胴衣（業務の内容により救命ボートも搭載）
- (エ) 救急箱
- (オ) 航空機用救命無線機

## 3. 航空法第111条の4の規定に基づく報告に関する事項

2025年度において、航空事故が1件発生しました。概要は以下のとおりです。

- 1 機体：ユーロコプター式EC135T2+型
- 2 概要：令和7年4月6日13時47分頃、患者輸送のため対馬空港から福岡和白病院へ帰投中、不時着水し搭乗していた6名のうち3名が死亡しました。
- 3 推定原因：細部は調査中。

## 4. 輸送の安全を確保するために講じた措置及び講じようとする措置

### (1) 上記3.の再発防止のために講じた措置及び講じようとする措置該当事項

次のような安全対策措置を講じました。

- ① 想定される事故原因に基づく教育
- ② 実機による確認飛行
- ③ 機体の健全性の確認

現在も事故機と同型の回転翼機の運航の自粛を継続しております。

### (2) 国から受けた行政処分等に該当する事項

該当する事項はありませんでした。

### (3) 情報の伝達及び共有

国内外で発生した航空事故（地上事故含む）や重大インシデントの情報は、毎朝の朝礼時に情報共有するとともに、詳細は安全掲示板に貼りだし情報を共有しています。

#### (4) 事故等の防止対策、発生時の対応及び災害への備え

航空事故を含む不測事態に対して、初動対応を適切に実施できるように各種対応訓練を実施するとともに、空港事務所や消防署などで計画される対応訓練にも積極的に参加し、不測事態対応能力の向上を図っています。また事象発生時に誰が何処に何を連絡及び通報するのかを定める等、連絡及び通報体制を確立しています。

#### (5) 内部監査の実施及びその管理状況

会社の安全管理システムが適切に確立され、実施され、維持され、機能していることを確認するため、年に1度、内部監査を実施しています。監査結果において改善を必要とする事項は全社員に周知されます。監査実施の成果は安全推進室で管理され、改善状況等を確認しています。

#### (6) 輸送の安全に係る文書の整理及び管理

関連文書等の整理及び管理については、管理すべき記録と保存期間を定め、内容に応じて適切な部署で管理されています。

#### (7) 事業の実施及びその管理の改善

各種事業の実施に際しては、事業の内容に応じて実施前の事前教育若しくは安全教育（会議）等を実施しています。

#### (8) 安全に関する目標の達成度及び取組みの実施状況

当社では2025年度の安全目標を『チームワークにより不安全要素を発見し、早期の排除に努める』と定め、安全指標及び安全目標値を以下のように設定し、取り組んでまいりました。

	安全指標	目標値	達成度
1	航空大事故（重大インシデント含む）	0件	1件（0%）
2	安全教育等	15回	15回（100%）
3	ヒヤリハット報告	23件	26件（113%）

今後とも更に質の高い安全管理施策の構築に努めてまいります。

## (9) 次年度における安全目標及び各部門における具体的な取組み目標等

- ア 2026年度の会社全体の安全目標  
『安全意識及び知識を含めた個人スキルの向上』
- イ 安全に関する具体的な取組み
  - (ア) 全社員の厳格なアルコールチェック
  - (イ) 適時適切な安全教育の実施
  - (ウ) 『航空安全の日（12月24日）』及び『安全教育の日』（7月）の実施
  - (エ) 適時適切なミーティング等による不安全要素の抽出及び対策の実施
  - (オ) 安全掲示板を活用した安全情報の共有の強化
  - (カ) ヒヤリハット報告の充実施策と社員へのフィードバック

以上です。